

第6学年5組 社会科学習指導案

指導者 千葉市立美浜打瀬小学校 五十嵐 健一

1 小単元名 武士の世の中へ

2 小単元について

本小単元は、学習指導要領、第6学年の内容(1)「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えようとするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。」のウ「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことが分かること」を受けて扱うものである。

児童はこれまでに、縄文～弥生時代のくらしの変化や天皇中心の国づくり、貴族の生活について学んできた。また、歴史学習の初めには、地元である千葉市の加曾利貝塚の見学や火起こし体験を通して、自分たちの住む千葉市に遺跡があることに驚いたり、火一つ起こすことの難しさを実感したりしていた。前小単元である「天皇中心の国づくり」では、どんな人たちが国を動かしていたのかということ、児童に常に意識させながら、聖徳太子が目指した天皇を中心とする政治の仕組みや日本風の文化が起こったことを調べ、まとめてきた。

本小単元「武士の世の中へ」では、平治の乱で源氏が敗れたところから鎌倉に幕府が置かれ、やがて衰退していく時期までのうち、「源平の戦い」「鎌倉幕府の始まり」「元との戦い」の3つの歴史的事象を主に取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、武士による政治が始まったことを分かるようにする。また、源頼朝や千葉常胤などの人物の具体的な行動やエピソードを通して、児童の関心を高めるとともに、武士による政治が始まったことについて、より具体的に理解し、武士たちの思いや願いを考えられるようにしていきたい。

本学級の児童は、未習の歴史的事象や人物についても、塾で習ったり、歴史の本やまんがを読んだりして知っている児童が少なくない。そのため、知識面については、おおむね高い傾向が、ワークテスト等の結果からも見られる。また、資料から読み取っていくような学習では、多くの児童が意欲的に取り組み、クラス全体としてたくさんの発見をすることができている。一方で、資料から読み取ったことから自分の考えをもったり、他の資料から分かったことと関連付けて考えたりすることについては、まだまだの部分がある。

そこで、本小単元では資料から読み取ったことを、それまでの学習(既習)や他の資料から読み取ったことと関連付けて、自分の考えをもてるようにしていきたい。本小単元の学習過程の中で、「思考・判断・表現」の評価規準を明確にし、それを繰り返していくことで、児童に複数の資料を関連させて社会的事象をみていく力を児童に培っていきたい。この学習で思考力を高めていくことにより、児童は、社会科以外の学習や普段の生活において、複数の事象を関連付けていくことができるようになるだろう。

また、地域の偉人である「千葉常胤」を学習の中に取り入れて学習過程を構成することで、自分たちの住む千葉県に対する誇りと愛情を感じられるようになるだろう。また、鎌倉幕府のご恩と奉公による主従関係を、有力な御家人であった千葉常胤を通して、具体的に学ぶことで、歴史上の人物の情意にせまり、歴史的事象を、より身近なものとして捉えられるようになっていくだろう。

3 児童の実態（男子16名 女子17名 計33名）

① 歴史の学習は好きですか。

とても好き	好き	あまり好きではない	好きではない
19人	10人	4人	0人
<主な理由> ・昔のことが分かって楽しい ・今と比べることがおもしろい ・日本で活躍した人物が知れるから ・自分で調べて学習できるから		<主な理由> ・歴史上の人物に興味がない ・覚えるのが大変 ・知らない人を覚えなければいけなく、難しい	

② 歴史は自分にとって身近なものだと思いますか。

身近	やや身近	あまり身近でない	身近ではない
7人	17人	2人	7人

③ 社会科で資料を読み取ることは得意ですか。（自分の意識として）

得意	やや得意	やや苦手	苦手
12人	16人	5人	0人
<資料を読み取る時に気をつけていること> ・聞かれていることに対応するものを見つけること ・細かいところまで読み取ること ・大事なところを落とさないようにすること ・短くまとめること ・前の時代との違いを見つけるようにしている			

④ 社会科で、資料から読み取ったことから自分の考えをもつことは得意ですか。

得意	やや得意	やや苦手	苦手
6人	14人	10人	3人

⑤ 社会科で資料から読み取ったことを、今まで習ったことや他の資料と比較し、自分の考えをもつことは得意ですか。（思考・判断・表現面）

得意	やや得意	やや苦手	苦手
5人	14人	4人	10人

⑥ 次の言葉を知っていますか。（知識・理解面）

	知っている（説明できる）	聞いたことがある	知らない
貴族	26人	7人	0人
武士	25人	8人	0人
藤原道長	13人	14人	6人
平清盛	12人	15人	6人
源頼朝	15人	11人	7人

源義経	13人	12人	8人
幕府	19人	13人	1人
鎌倉時代	18人	14人	1人
ご恩・奉公	11人	10人	12人
千葉常胤	4人	7人	22人
千葉城	13人	20人	0人
千葉開府890年	7人	15人	11人

※網掛け部分は、最も大きな割合を示す回答

⑦ どのようなことがきっかけで歴史が変わると思いますか。

・戦争や争いが起きた時（9人）	・天皇が亡くなった時（7人）
・大きな発明（新しい考え）をしたとき（3人）	・重要人物が亡くなった時（3人）
・人の行動（3人）	・人の思い（1人）
	・えらい人が交代したとき（2人）

<考察>

本学級の児童は、歴史学習に対して前向きに取り組んでいる児童が多い。その理由として挙げられるのは、「自分で調べることができるから」といった資料を自分で読み取りながら問題の解決に迫っていくような学習を児童が好んでいることや、昔の人物や出来事について学べるのが楽しいということであった。しかし、歴史の学習に対して「あまり好きではない」と答えた児童の理由を見てみると「覚えるのが大変」「歴史上の人物に興味がない」といった回答があり、歴史の学習に関心や興味をあまりもてていなかったり、歴史学習を暗記する教科のようなイメージでとらえていたりすることが伺える。

歴史で扱う語句や人名に関しては、塾などに通っている児童が多いこともあってか、未習のものであっても知っている児童は多い。「藤原道長」「平清盛」「源頼朝」などの、教科書に出てくるような有名な人物については、約4割の児童が「説明できる」と答え、「説明できる」と答えた児童も含めて約8割の児童が「聞いたことがある」と回答している。このことから、知識・理解の観点でみると、児童の実態は低くないと言えるだろう。

資料の読み取りに関しては、約8割の児童が「得意である」と自己評価している。実際、学習中も多くの児童が、資料から様々なことを読み取ることができていることが、ノートの記事などからも見て取れる。一方で、資料から読み取ったことを基にして、自分の考えをもったり、資料から読み取った内容を、既習や他の資料と結び付けて考えたりすることについては、3分の1以上の児童が苦手意識をもっている。

そこで、本小単元では、児童があまり自信をもていない「思考・判断・表現」の力を高めるような指導を行っていきたい。児童は、歴史学習において問題解決的な学習に意欲的に取り組み、歴史上の人物の気持ちを想像しながら、その時代について調べたり考えたりすることにおもしろさを感じている。よって、本小単元においても、児童が疑問を感じ、その疑問について「調べたい」「考えたい」と思えるような単元構成にしていきたい。また、単元の学習の中でも、児童が問題解決のために資料を読み取る活動をしていく中で、前の時代と比べたり、他の資料が示していることと比較したりしながら、自分の考えをもち、それを表現できるような単元構成にしていきたい。

4 知識の構造図

中心
概念

源頼朝、義経らの働きによって武士による政治が始まり、頼朝は、ご恩と奉公という土地を仲立ちとする主従関係によって武士を統率した。 ⑧

まとめる

① 貴族が都で華やかな生活をしている一方、地方の有力な農民は、田畑を切り開いて領地を拡大し、自分の領地を守るために武芸にはげみ、武士となった。

①

・豪族
・武士
・領地
・武芸

② 武士の登場で世の中が変わった。平治の乱で源氏は負けたが、その後源頼朝が鎌倉幕府を開き政治の中心に立った。

②

・源氏・平氏・源頼朝
・鎌倉幕府
・平治の乱
・征夷大將軍

③ 武士のなかで勢いが強かった平氏は、平清盛を中心に、藤原氏に代わって政治を行うようになったが、貴族やほかの武士たちとの間で不満が高まった。

③

・平清盛
・武士たちの不満

④ 源頼朝は、石橋山の戦いで敗れ、船で千葉の安房に逃げた。千葉県には「千葉常胤」という武士がいて、平治の乱で源氏側に味方し、源義朝が敗れたことで、自らも領地の一部を失っていた。

④

・鎌倉幕府
・千葉氏
・千葉常胤
・領地

⑤ 千葉常胤は源頼朝の味方をし、源頼朝の鎌倉幕府開府に貢献した。千葉氏と源頼朝は土地を仲立ちとする「ご恩と奉公」の関係で強く結ばれていて、全国に広大な所領を得た。

⑤

・御成敗式目
・ご恩と奉公

⑧ 元は日本に服従を求めてきたが北条時宗が退けた。全国から集まった武士は恩賞を得るために一所懸命に戦ったが、領地を与えられず、幕府と武士の関係がくずれた。

⑧

・元寇
・一所懸命
・てつほう

具体的知識

用語
語句

つかむ

調べる

5 単元の目標

- 武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産を通して、武士による政治が始まったことがわかるとともに、それらにかかわる人物の願いや働きについて考えようとする。
- 武士の暮らしの様子や願いから学習問題を見だし、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して調べたことまとめるとともに、武士による政治が始まったことやそれらにかかわる人物の願いや働きについて思考・判断したことを適切に表現する。

6 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
社会的事象への 関心・意欲・態度	○武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きに関心を持ち、進んで調べようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	○武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いと、それらにかかわる人物の働きについて、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ○武士による政治が始まったことやそれらにかかわる人物の願いや働きについて思考・判断したことを適切に言語などで表現している。
観察・資料活用の技能	○武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きについて、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して必要な情報を集めて読み取っている。
社会的事象についての 知識・理解	○武士による政治が始まって新たな時代を迎えたこと、源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士の力が全国に及ぶようになったこと、元との戦いが鎌倉幕府の全国支配に大きな影響を及ぼしたことがわかっている。

7 単元の指導計画（8時間扱い）

※千葉市の指導計画では6時間扱いとなっているが、鎌倉幕府の成立に、地域の偉人である千葉常胤が貢献したことを学習することで、地域に対する誇りと愛情をもつことができると考え、千葉常胤について理解する時間および見学調査する時間として2時間加配している。

過程	時間	主な学習活動と内容
つ か む	1	○武士とはどのような人たちで、どんな暮らしをしていたかを考え、気づいたことを話し合う。 ・「武士のやかたの様子（想像図）」から、武士の生活の様子を読み取る。 ・「武士のやかたの様子（想像図）」から、武士は何のために武装したり、武芸に励んだりしていたかを予想する。
		○武士の登場で世の中が変わったこと、平治の乱で源氏が負けたにも関わらず、その後源頼朝が鎌倉幕府を開き政治の中心に立ったことをつかみ、単元の学習問題を設定する。 ・「力をつける武士団（絵図）」から、武士が世の中で力をもったことをつかむ。 ・武士の政治の始まりについて、「平治の乱（絵図）」や年表などの資料を活用して調べ、武士が力をつけて政治を動かすようになったことを読み取る。

	2	<div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> <p>学習問題</p> <p>武士の登場で世の中はどう変わったのだろう。また、源頼朝はなぜ政治の中心に立つことができたのだろう。</p> </div> <p><学習計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、政治の中心が貴族から武士へと変わったのか。 ・源氏と平氏の戦いには、どんなものがあったのか。 ・源頼朝は、どんな政治を行ったのか。
調 べ る	3	<p>○平氏による武士の政治の始まりについて調べ、武士はどのようにして勢力をのびしたのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料集の「まんが・武士のおこり」を読み、貴族に変わって武士が力をつけてきた背景をつかむ。 ・資料「1183年ごろの勢力範囲」を見て、当時は平氏や源氏の力が強く、広い範囲を治めていたことを読み取る。 ・平氏一族が政治を思うままに動かすようになったため、貴族や武士の一部からは不満の声が高まっていったことをつかむ。
	4	<p>○源頼朝がどのように軍を進めていったのか、石橋山の戦いを中心に詳しく調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石橋山の戦いについて、資料をもとに、読み取る。 ・石橋山の戦いで敗れた頼朝が、真鶴から船で千葉県のアノに逃げたことをつかむ。 ・千葉県には「千葉常胤」という武士がいて、平治の乱で源氏側に味方し、源義朝が敗れたことで、自らも領地の一部を失ってしまったことをつかむ。
	5 本時	<p>○千葉常胤が源頼朝の味方をしたことと、千葉氏が全国に広大な所領を得たことを関連付けて考え、将軍と武士の土地を仲立ちとした主従関係についてつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料「源頼朝の挙兵関係図」から、源頼朝が挙兵し、今の千葉県に上陸したあたりから勢いをつけていったことをつかむ。 ・資料から、頼朝の信頼を得た常胤が全国各地に広大な所領を得たことを読み取り、「源頼朝の挙兵関係図」から分かったことと関連付けて、頼朝と常胤の関係について「土地」をキーワードにして考える。
	6	<p>○千葉市郷土博物館に行き、千葉常胤の功績について、具体的に調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源頼朝と千葉常胤の信頼関係について理解する。 ・博物館のボランティア解説員の方に、自分たちが資料で調べても分からなかったことについて質問する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※なお、具体的な調べる内容の整理については、安全指導を含めた校外学習事前指導の際に行う。(配当外)</p> </div>

ま と め る	7	<p>○調べてきたことをもとに、単元の学習問題に対するまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 武士の登場で、戦いで勝った者が力をもって、世の中を動かすようになった。源頼朝は、平氏に不満をもった武士たちをまとめ、土地を仲立ちとしたご恩と奉公という主従関係によって政治の中心に立つことができた。</p> </div>
	8	<p>○鎌倉幕府の力がどのようにして弱まっていったのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元寇の時、武士たちが、元軍の集団戦術や火薬兵器などに苦しみながら、恩賞を得るために一生懸命に戦ったことを調べる。 ・鎌倉幕府が、元との戦いで活躍した武士に新しい領地を与えることができなかったことと、鎌倉幕府の力が弱まっていったこととの関連について考える。

8 市教研社会科研究主題のための方策

「みえる わかる・・・いかす」

よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科学習

<本年度主題解明のための方策>

- ① 目指す児童の姿、習得すべき知識・概念、身に付けさせたい力の明確化
- ② 追求意欲を高め、社会認識が深まり、参画への意識が育つ教材の開発
- ③ 主体的に学び、参画への意識が高まる学習過程の工夫
- ④ 社会認識の深まりや社会参画の資質や能力を見取る評価の工夫

本単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

③ 主体的に学び、参画への意識が高まる学習過程の工夫

○地域教材を活用した、児童が主体的に学べるような学習過程の工夫

本小単元では、地元千葉県に関わる歴史上の人物である「千葉常胤」を扱っていき、児童が主体的に学べるよう、学習過程を工夫していきたい。千葉常胤を学習過程の中に組み込んでいくことで以下の2点のメリットがあると考えます。

1つ目は、地元の偉人である千葉常胤を学習の中で扱うことにより、鎌倉時代の将軍と武士の主従関係を具体的に学ぶことができるということである。ここまで児童は、歴史学習を人物中心に学んできている。しかし、時の天皇や全国を治めた武将については大きく扱う一方で、地方の武士が大きく扱われることは少ない。本小単元では、鎌倉時代における有力な武士の一人であった千葉常胤と鎌倉幕府の将軍であった源頼朝との信頼関係、主従関係をストーリーとして学んでいく中で、鎌倉幕府がどのようにして武士を従えていったのかということ、より具体的に、人物を通して学んでいけると考える。

2つ目は、地域の偉人を扱うことで、歴史と自分たちの住む「千葉」との関わりを身近に感じさせ、自分達の住む千葉に誇りや愛情を感じさせるとともに、児童の興味・関心を高め、歴史学習に対する意欲を高めていくことである。ここまでの歴史学習では、飛鳥・奈良時代などの都は

関西（奈良・京都など）に多く、なかなか児童は、自分たちが住む千葉と日本の歴史を結びつけられていない。本小単元の学習で、千葉常胤が鎌倉幕府の成立に大きな役割を果たしたこと、千葉県にはその頃にゆかりのある場所も多く、歴史が大きく動いた鎌倉時代に、自分たちが住む千葉県も、その舞台になっていたということを学ばせていきたい。単元の後半には、学習を進めてきて分からなかったことや疑問に思ったことを、「千葉市郷土博物館」に校外学習に行き、ボランティアの方に話を伺う活動を取り入れる。そうすることで、児童が抱いた疑問を主体的に解決していけるようにしていきたい。

④ 社会認識の深まりや社会参画の資質や能力を見取る評価の工夫

○社会認識や思考の深まりを見取るための「思考・判断・表現」の観点における評価の工夫

児童の社会認識や思考を深めていくため、本小単元では、特に「思考・判断・表現」の評価基準を明確にし、その基準をもとに、ノートにおける記述について児童にフィードバックしていくことで、児童の思考力を高めていきたいと考える。

具体的に本小単元では、資料から読み取ったことを基に、自分の考えをもてるような時間を保障し、思考力の向上を狙っていきたい。単純に資料を読み取れたら「○」、資料から気づいたことを基に、「これは○○ということではないか」「もしかしたら○○ということかもしれない」などと資料から気づいたことに付加して、(既習などをいかしながら)自分の考えをもてたら「◎」、といったように、児童にも評価の基準を提示しながら、本小単元の学習を進めていく。児童の思考したこと全てが歴史上の史実と一致するとは限らない。しかし、資料から読み取ったことを基に、出来るだけ根拠を明確にしたうえで、自分の考えを書いていく活動を繰り返し続けていくことで、児童の思考力は高まっていくのではないかと考える。

9 本時の指導（5／8）

(1) 本時の目標

○千葉氏が源氏の戦いに加勢したことと、千葉氏が源氏から全国にたくさんの領地をもらったことを関連付け、自分の言葉で表現することができる。

(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
5	1 資料「源氏の挙兵関係図」を見て、千葉を通った後に源氏の騎馬の数が大きく増えていることをつかみ、本時の学習問題をとらえる。 ・わずか6騎から40000騎に増えている。 ・千葉のあたりを通った後に、勢力が増えている。	○石橋山の戦いで源頼朝が敗れ、わずかな従者ととも房総半島にたどりついたことを学んだ前時の学習を復習する。	○前時までの学習の掲示物 ○源氏の挙兵関係図
	武士たちは、なぜ源氏に味方をしたのだろう。		
10	2 武士たちが源氏に味方をしていった理由を予想する。 ・千葉氏が源頼朝に味方をしてあげたのではな	○予想に根拠をもたせるため、前時までに学習した、平氏に不満をもっていた武士がいたこと	○前時までの学習の掲示物

<p>15</p> <p>3</p>	<p>いか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平氏の政治を良く思っていない人たちがいたのではないか。 <p>資料「全国に広がる千葉氏の領地」を読み取って分かったことを発表し合い、武士たちが頼朝に味方したことと関連付けて、将軍と武士の関係を考える。</p> <p><資料から分かること></p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県以外にも千葉氏の領地がある。 全国にたくさん千葉氏の領地がある。 <p><資料から考えられること></p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉氏が頼朝に味方したから、たくさんの領地をもらえたのではないか。 味方して一緒に戦ってもらふことと、土地をもらえることで、どちらにもいいことがあったのではないか。 	<p>を掲示物で確認し、想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県以外にも、千葉氏の領地は全国に広がっていたことに気付かせるようにする。 武士たちが頼朝に加勢したことと、千葉氏が全国に多くの領地をもらったことを関連付けられるよう助言する。 <p>◆千葉氏が源氏の戦いに加勢したことと、千葉氏が源氏から全国にたくさんの領地をもらったことを関連付け、ノートに自分の言葉で表現することができる。</p> <p>(ノート・発言) 思・判・表</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全国に広がる千葉氏の領地
<p>10</p> <p>4</p>	<p>土地を仲立ちとした将軍と御家人の主従関係を「ご恩と奉公」ということ、鎌倉幕府は他にも守護や地頭を置いたり、御成敗式目を作ったりするなどして、武士を従えたことをとらえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ご恩と奉公について図をもとに確認することで、将軍と武士の両者にとって利点がある仕組みであったことをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ご恩と奉公の関係を示す図
<p>5</p> <p>5</p>	<p>本時のまとめをする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>武士たちは、土地を仲立ちとすることとご恩と奉公の関係で、源頼朝と強い結びつきがあったから、源氏に味方をした。</p> </div>		

10 本時の使用資料

